

勿凝学問 393

運用三号をめぐり繰り広げられた、いわゆる政治主導

「江戸の敵を長崎で打つ」の続編

2014年12月3日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

下記は、2011年3月10日、東日本大震災前夜のホームページ運用三号の問題で、それを決めた厚労大臣が無罪放免で、当時の課長が更迭という事態に、怒りが我慢できなかつた感じの文章かね。この翌日3月11日に大震災が起こり、僕のホームページは、4月16日まで次の状態のままだった。当時、世間では、僕が病気になったのではないかと心配した人もいたようで。。。

2011年3月10日

運用三号の問題で、どうして、「当時の私の判断としてはベスト」とコメントした前大臣が無罪放免で、政治家が決めたことに従うしか術がない課長が更迭なんだ？

政治家が判断ミスの責任を問われた時に、現場の官僚を生け贄に差し出す力を持つことを政治主導っていうのか？

この処分の正当性を説明したい人がいれば、連絡くれ。

先日も、仕事依頼の連絡が来て、僕が現政権に批判的なことを言うと、「そういうことを大臣達の前で言ってもかまわない」と言われ、「僕は、彼らを大臣だとは認めていないんですよ。総理を始めね」と答えて仕事の依頼を断ったけど、これまで何度かきた仕事をすべて断っておいてよかったよ。今回の件があれば、万が一、僕が何かの仕事を引き受けていたとしても、やはり奴らにはどうしても協力したくないと言って辞めていたな。

昨日書いた勿凝学問 366 で、本当は「社会保障を利用しようとしている奴ら」と書きたかったところを遠慮して「例の政党」にしたけど、もう、そういう遠慮も必要ないだろう。特に、前厚労大臣は、人の上に立つ職業人たる政治家としてという以前に、人として難がありすぎる——今回のことに限らず。僕に出会った学生たちは、絶対にこうあってはならない。

- 勿凝学問 298 [官僚を萎縮させる方法——江戸の敵は長崎で討つ、という脅しは効果観面だろうか](#)

それとみんな、官僚の力を過大評価しすぎだ。選挙という、どんな人物でも先生に昇華させてしまう「神聖な儀式」を通過した人たちってのは、官僚を頭ごなしに怒鳴り付けることができるくらいに強いもんなんだよ。だから、その「神聖な儀式」が、あまりにも卑怯な手段で穢されてしまうとすれば、その人物は先生ではなくなることになる。そのあたりが、僕の「彼らを大臣だとは認めていないんですよ」発言と関係しているし、僕が以前から使っている選挙の正当性、統治の正統性という言葉と関係してくる。

それにだいたい、それぞれの領域に土地勘のある官僚が政策形成に強い影響力を持っているとすれば、財政も、今回の年金も、今のような問題を抱えているはずがない。このあたりは、次でも。

- 勿凝学問 248 [あのねえ、役人任せの政治をやっていたら、今のような財政状況にはなっていないよ——茨城県で民主党支持者に官僚支配の政治の打破が必要なのではないかと問われて](#)

当時、民主党を支持し、政権交代に歓喜した人たちは、とにかく、元気がない。でも、仕方がない。みなさんは、素人なんだから。専門情報を司る職業人が守るべき職業倫理を捨て去り、素人を確信犯的にダマそうとするデマゴグが出てくれば、そりゃあ、ダマされるさ——なにも、みなさんが悪いんじゃない。空手の有段者やプロボクサーが素人を殴ったからといって、殴られた方が責められないのと同じだ。とはいえ・・・

「[この人民ありてこの政治あるなり](#)」の今日的な意味合い」『三色旗』749号

この2ヶ月後の5月30日にも、運用三号についてホームページで触れているな。

2011年5月30日

明日5月末締切で、『年金50問50答』の感想を書いてもらっている。さっき、次の文章を含むレポートがレポート用掲示板にアップされた。

本書において繰り返し述べられているのが「現役時代に支払った保険料に応じて、老後に年金を受け取る」ということである。一見すると当たり前すぎるようにも思えるが、意外とこのようなことでさえも少し間違っただけで容易には達成できないものである。その最たる例が2011年の政府による「運用3号」の問題だろう。恥ずかしいことに当時話題になっていた頃はさほど意味がよくわかっていなかったが、切り替え手続きをしなかった専業主婦達の優遇となってしまう、正直に払い続けた者が損をするという、あってはならないことが平然と行われていたのである。後に撤回となったものの、こうした事態が発生していることから国民だけに限らず政府においても認識もしくは知識が足りないのではないかと感じざるをえない。

運用3号について、年金記録回復委員会でどのような議論がなされたのか、次の議事録をみてごらん。

- 2011.1.31 第20回年金記録回復委員会 [議事要旨](#)
- [委員名簿](#)

3月11日、大震災の数時間前にアップされた新聞記事に次があるね。

- [年金記録回復委員会の仕事を評価](#) 細川厚労相

この問題を最初にとりあげた新聞は、朝日。2月2日に朝日が社説でとりあげたとき、僕は、すぐに[ここ](#)でとりあげているね。年金に土地勘のある者は、これは明らかにおかしいということがすぐにわかるからね——まあ、年金の専門家でもなくても、この取り扱いのおかしさはわかるはずだけど。。

そうすると、すぐに世界のどこかの知らない人からいくつかの連絡が舞い込んできた。そのうちのひとつを紹介・・・4ヶ月も経ったからもういいかな。

Subject: 2 / 2 HP 拝読後の感想（超絶的に超法規的な3号記録の特殊取扱は、ただいま実施中の筈です。）

権丈 善一 先生 侍史

拝啓、時下ますますご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

先生の著作やHPは常々拝読・拝見致しております。本日は、恐縮ながら、蛮勇をふるってメールを差し上げたく存じます。

先生が、[HPに2月2日付](#)で掲載されている「国民年金第3号被保険者記録」の実務『運用』取扱に関しましては、色々な意味で問題を含んでいると、外野から見ても思います。

この取扱い方針は、長妻前大臣直轄（肝いり）の『年金記録回復委員会』の発案（指示？）を受けて行われる対応のようです。今月中旬からは実施が始まっていると承知しております。

子細を申し上げるほどに精通しておりませんが、（現行法体系とは明らかに矛盾する事案に対しても）何らの法改正無く、厚生労働省年金局から年金機構への実施通知で行われる、「凡そ法律に基づく行政という概念・（年金法規に限らない）既存の法体系」を”全くと申しますか、超絶的に”超越した措置であることは間違いないでしょう。（嘆息）

過去に真面目に法令上の届出義務を果たしてきた者、今まで法令に従って記録を訂正して無年金・低年金となった者、こうした人々は何ら報われることの無いまま、「故意、過失、無関心又は不作為によって、届出義務を果たさなかった者だけが、（事後に見ると、明らかに事

実に反する場合であっても) 救われる」状況にあります。

現場の反応は「今まで法令に従って対応した結果、無年金・低年金となった者からの苦情の殺到が予想され、そうならば対応できないし訴訟沙汰になる可能性もある。そうした者からの苦情は正論であり、機構側の今回の措置の法的な正当性に疑義があるが故に、対応に困るし今回の処置は納得できない。せめて法改正か新規立法をして欲しい。」というものが多くあるようです。しかし厚生労働省や機構本部からは「苦情対応は全て現場の事務所で、訴訟対応は発生してから考える」という指示もあるようです。(嗚呼)

なんと申しますか、正直者が馬鹿を見るというか、年金制度や業務執行への不信感を高めて、制度の安定性を(数理ではなく)実効性や執行面の観点から、完膚無きまでに破壊しかねない策だと思っています。(法制度を無視しても最後は救われるとなれば、好んで法制度を遵守しようとする者は少数派でしょう。)

如何にも、長妻先生クオリティな施策だと思いますが、「信頼回復のためと前大臣が仰る施策が、爾後の信頼を失墜・消滅させる方向に働く可能性、超法規的措置を対規模に行う事による本来業務の適正執行に対する執行負荷の増加可能性」について、どこまでお考えになっているのか。。。私の様な素人目線からは、この施策について副作用や後遺症が大きすぎるように思いますけど。。。。

末筆ながら、先生のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

敬具

他に当方の HP をご覧になった志木市長の長沼さんから、「この問題に対する私の考えは、市職員の意見を踏まえながら、市のホームページに記させていただきました」との連絡を頂いて、次の文章を紹介したんだよね。

- [年金の不整合記録はどう是正されるべきなのか](#) 志木市長ブログ

このホームページによる長沼市長のブログの紹介が、先日の朝日新聞の長沼さんへのインタビュー記事につながった模様。極めてまっとうなご意見でしたね。僕としては、他に、[記録回復委員](#)の中の学者さんにもインタビューしてほしかった気がするけどね。かなりの責任があるんじゃないかな。昨日話した小林秀雄の言葉じゃないけど、信じるということは責任をとる覚悟をもつということなんだよ。

2011年2月2日

ふ～ん、これ、本当なのかね？ もしそうならば、保険方式と税方式の違いも分かってなさそうな「ミスター年金」のご判断と言えどご判断らしいと言えるかな。

- [主婦の年金——この不公平はゆるされない](#) asahi.com

昨夜は、パワーポイントを作りながら[衆議院インターネット](#)で予算委員会を流していたけど、「ウソをつきました」「国民をダメしました」という禁句を使わない討論ゲームをみているようで、やっぱり政治は壊れてる（笑）。「知らなかった」「無知だった」といのも、ウソなんだよなあ。ウソをついてほしくないんだけど、難しいだろな。

いまも国会で年金の議論をやっているけど、このディベート官房長官たちが野党に追い詰められるあまり、昨年末から社会保障改革の事務局が頑張ってきたことを水の泡にしてしまっているみたいだな。

前々代表主導による詐欺選挙を経て政権交代を経験してしまった日本——今後どうなるか、神のみぞ知るだな。

今日は、[主婦の年金——この不公平はゆるされない](#)に関する、日本中からのいくつものご連絡ありがとうございます。年金に関係した人たちは、年金への信頼を守るために、その手段として保険原理の堅持を、皆年金施行から50年間、もっと融通をきかせろという政治家からの声に対して、これまで歯を食いしばってがんばってきたんだよね。いわゆる「政治主導」なんだろうな。